

日本・モンゴル民族博物館
開館10周年記念特別展

「モンゴル大恐竜展」

7月9日(日)まで《開催中》

2006年春、全長10メートル級の肉食恐竜タルボサウルスをはじめとするモンゴルの恐竜が豊岡市にやって来ます。恐竜発掘の世界的宝庫であるモンゴルのゴビ砂漠を中心に、巨大恐竜や格闘したまま化石になった恐竜など貴

開催概要

- ◇期間 7月9日(日)まで《開催中》
- ◇開館時間 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- ◇休館 毎週水曜日〔4月26日、5月3日は開館〕
5月8日(月)・5月19日(金)～5月24日(水)
- ◇会場 メイン会場 資母体育館(日本・モンゴル民族博物館隣)
サブ会場 日本・モンゴル民族博物館企画展示室
- ◇入館料 一般……………500円、高校生・大学生…300円
小学生・中学生…200円(ココロンカード利用可)
市内在住65歳以上……………250円
- ◇主催 豊岡市・豊岡市教育委員会
- ◇監修 モンゴル国立科学アカデミー古生物学センター

重なる標本を展示しています。

■肉食恐竜タルボサウルス
タルボサウルスは約7400～6500万年前の白亜紀後期に生息していたとされるティラノサウルス科の恐竜で、全長6～10メートルにもなります。展示しているものは全長10メートル近い巨体をねじらせており、その迫力は圧倒的です。

■恐竜の巨大化
恐竜の巨大化は、約2億3500万年前の三疊紀後期から約6500万年前の白亜紀後期にかけて地上に君臨した恐竜の「多様な進化」のひとつの姿であったことが次第にわかってきました。

気候や食物、他の生物との関係によって、恐竜はその体や生態をさまざまに変えることで生き残りをかけてきました。「モンゴル大恐竜展」では、恐竜が生きた時代の環境と、彼らがたどった多様な進化の秘密に迫ります。

■恐竜の絶滅と進化
そして、恐竜は白亜紀が終わるころ、多くの植物とともに姿を消します。その理由については、今も研究者の間で

議論が続いています。いずれにしても白亜紀の終了とともに恐竜時代は終わりました。

しかし、ある意味で恐竜は今なお私たちの身近に存在しているといわれるのは、鳥類が小型獣脚類の直系の子孫だからです。現在では多くの研究者が、鳥類とは羽をもち、空を飛べる恐竜、大絶滅を切り抜けた恐竜と考えているのです。もしかしたら、コウノトリは恐竜が進化したものかも知れません。

■恐竜の歴史を学ぶ
約6500万年前の昔、地球に存在していた恐竜たち。今、その姿を正確に知ることはできませんが、骨格からある程度推定することができます。全長10メートルにもなる巨体をゆすつて、地上をわがもの顔で歩いていたかと思ふと、はるかな時代へのロマンに心躍ってしまいます。子どもや大人も、年齢を問わず楽しく見学できます。会期中は恐竜に関する各種体験教室も開催しますので、ぜひご来館ください。

《問合せ》日本・モンゴル民族博物館 ☎56-1000